



2026年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年8月1日

上場会社名 株式会社あじかん 上場取引所 東
 コード番号 2907 URL <https://www.ahjikan.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 足利 直純
 問合せ先責任者 (役職名) 経営管理部長 (氏名) 森屋敷 登 TEL 082-277-7010
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無： 無
 決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第1四半期の連結業績（2025年4月1日～2025年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第1四半期	12,101	△0.6	△137	—	△124	—	△56	—
2025年3月期第1四半期	12,173	3.0	478	240.6	679	72.7	475	73.3

(注) 包括利益 2026年3月期第1四半期 △148百万円 (—%) 2025年3月期第1四半期 618百万円 (59.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第1四半期	△7.41	—
2025年3月期第1四半期	62.44	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年3月期第1四半期	26,630	17,012	63.9	2,235.24
2025年3月期	26,897	17,388	64.6	2,284.71

(参考) 自己資本 2026年3月期第1四半期 17,012百万円 2025年3月期 17,388百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	30.00	30.00
2026年3月期	—	—	—	—	—
2026年3月期（予想）	—	0.00	—	52.00	52.00

(注1) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

(注2) 2025年3月期期末配当金の内訳 普通配当 25円00銭 特別配当 5円00銭

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	25,000	△0.4	350	△73.1	350	△73.8	230	△75.1	30.22
通期	52,000	1.9	1,750	△10.9	1,850	△16.7	1,220	△21.2	160.30

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更： 無
新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年3月期1Q	7,700,000株	2025年3月期	7,700,000株
② 期末自己株式数	2026年3月期1Q	89,053株	2025年3月期	89,053株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2026年3月期1Q	7,610,947株	2025年3月期1Q	7,610,947株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー： 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により予想数値と大きく異なる可能性があります。なお、業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(金額の表示単位の変更について)

当社の四半期連結財務諸表に表示される科目その他の事項の金額については、従来、千円単位で記載しておりましたが、当第1四半期連結会計期間及び当第1四半期連結累計期間より百万円単位で記載することに変更しております。なお、比較を容易にするため、前連結会計年度及び前第1四半期連結累計期間についても百万円単位の記載に変更しております。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	8

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、雇用や所得環境が改善する中、景気は緩やかな回復がみられる状況となりました。しかしながら、物価上昇の継続に伴う個人消費の下振れ、中東情勢の緊迫化や米国の関税政策に伴う金融資本市場の大幅な変動など、景気回復を下押しするリスクも台頭しており、先行き不透明な状況で推移いたしました。

食品業界におきましては、仕入価格や諸経費が高値で推移していることに加え、人手不足に伴う人件費の高騰など、厳しい経営環境で推移いたしました。

このような状況の中、当社グループは、「“おやくだち”の精神でお客さまや取引先、株主、社会へ貢献し、社員がいきいきと働く風土づくりと安定した収益構造および価値創造ビジネスの推進により、“選ばれる企業”として持続的に成長していく」ことを基本方針とした第13次中期経営計画の2年目をスタートさせ、第一に「収益構造改革の完遂」、第二に「業務用事業の質的成長と拡大」、第三に「ヘルスフード事業、海外事業の成長拡大」、第四に「ごぼう事業、市販事業の新たな価値の創造」、第五に「経営品質の向上」を重点施策とした取り組みを展開してまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は12,101百万円（前年同四半期比0.6%減少）となり、前年同四半期実績を下回りました。利益面につきましては、当社の主要原材料である鶏卵が高値で推移したことに加え、物流コストや人件費の上昇などもあり、営業損失は137百万円（前年同四半期は営業利益478百万円）となりました。経常損失は、デリバティブの時価評価損や持分法による投資利益などにより124百万円（前年同四半期は経常利益679百万円）となり、親会社株主に帰属する四半期純損失は56百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益475百万円）となりました。

報告セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

①業務用食品等

販売面におきましては、米や海苔などの価格高騰により当社の主力製品を多く使用した巻寿司の需要が減退したことで、かに風味蒲鉾などのすり身製品や、味付かんぴょうなどの野菜加工品の需要が減少しました。加えて、食料品価格上昇の継続に伴う消費行動の変化により、回転ずしチェーンを中心とした外食業態の需要は上昇したものの、当社の主要取引先であるコンビニエンスストアやスーパーマーケットを中心とした中食業態の需要が減少したことで、国内売上高は前年同四半期実績を下回る結果となりました。他方、海外輸出売上高につきましては、カリフォルニア州における動物福祉法（Prop. 12）によって、鶏卵を使用した玉子製品の流通が規制されており、連結子会社のAHJIKAN FOODS, INC.を通じた北米での売上が低調となりましたが、オセアニアや香港を中心に需要が拡大し、前年同四半期実績を上回る結果となりました。

生産面におきましては、生産効率の向上に努めましたが、当社の主要原材料である鶏卵価格が高止まりしていることにより、製造原価率は前年同四半期に比べ大幅に上昇しました。

販売費につきましては、人件費や物流コストの上昇などにより、前年同四半期に比べ増加しました。

これらの結果、外部顧客への売上高は11,031百万円（前年同四半期比1.3%減少）となり、セグメント利益（営業利益）は332百万円（前年同四半期比65.5%減少）となりました。

②ヘルスフード

販売面におきましては、通信販売は、テレビCMを中心に積極的な広告宣伝を実施したことなどもあり、「焙煎ごぼう茶ごぼうのおかげW」をはじめとした機能性表示食品の売上が好調に推移したことで、売上高は前年同四半期実績を上回る結果となりました。他方、ドラッグストアなどでの市販品では、新規開拓やインスタプロモーションの強化を行ったことなどにより、売上高は前年同四半期実績を上回る結果となりました。

生産面におきましては、生産高が増加したことで固定費率が低下しましたが、主要原材料であるごぼうが高値で推移した結果、製造原価率は前年同四半期に比べ上昇しました。

販売費につきましては、増収に伴う変動費の増加に加え、戦略的な広告宣伝の実施、人件費の上昇などにより、前年同四半期に比べ増加しました。

これらの結果、外部顧客への売上高は953百万円（前年同四半期比8.2%増加）となり、セグメント利益（営業利益）は51百万円（前年同四半期比16.8%増加）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

(資産)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ266百万円減少し26,630百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ215百万円減少し13,548百万円となりました。主な増減要因は、その他に含まれる前払費用の増加167百万円、原材料及び貯蔵品の増加102百万円、商品及び製品の減少296百万円、受取手形及び売掛金の減少167百万円などです。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ51百万円減少し13,082百万円となりました。これは、投資その他の資産において投資有価証券の増加もありましたが、減価償却の進行に伴い有形・無形固定資産が減少したためです。

(負債)

負債合計は、前連結会計年度末に比べ109百万円増加し9,618百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ202百万円減少し8,079百万円となりました。主な増減要因は、賞与引当金の増加299百万円、買掛金の増加271百万円、未払法人税等の減少294百万円、その他に含まれる未払金の減少280百万円、短期借入金の減少100百万円などです。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ312百万円増加し1,538百万円となりました。主な増加要因は、長期借入金の増加383百万円などです。

なお、当第1四半期連結会計期間末の借入金残高は、前連結会計年度末に比べ388百万円増加し3,474百万円となっております。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ376百万円減少し17,012百万円となりました。主な減少要因は、剰余金の配当による減少228百万円、為替換算調整勘定の減少108百万円、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上による減少56百万円などです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ0.7ポイント減少し63.9%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高につきましては、概ね当初予想どおりで推移しておりますが、利益面につきましては、鶏卵価格が当初見込みを上回る状況で推移していることや、諸経費の上昇により当初予想を若干下回る状況で推移しております。

なお、業績予想につきましては、原材料価格や為替の変動など業績に与える流動的な要素も多いため、現時点において、2025年5月14日に公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想を変更しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,275	2,298
受取手形及び売掛金	5,753	5,585
商品及び製品	3,535	3,238
仕掛品	64	79
原材料及び貯蔵品	1,586	1,688
その他	556	664
貸倒引当金	△8	△7
流動資産合計	13,763	13,548
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,374	3,335
機械装置及び運搬具(純額)	1,919	1,833
土地	4,155	4,154
リース資産(純額)	250	222
その他(純額)	520	590
有形固定資産合計	10,221	10,136
無形固定資産		
ソフトウェア	614	618
ソフトウェア仮勘定	73	71
リース資産	8	6
その他	3	3
無形固定資産合計	699	699
投資その他の資産		
投資有価証券	961	988
長期前払費用	2	2
繰延税金資産	10	15
退職給付に係る資産	417	427
その他	847	837
貸倒引当金	△27	△25
投資その他の資産合計	2,211	2,246
固定資産合計	13,133	13,082
資産合計	26,897	26,630

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	3,055	3,327
短期借入金	1,760	1,660
1年内返済予定の長期借入金	487	592
リース債務	125	115
未払法人税等	359	65
賞与引当金	327	627
役員賞与引当金	—	11
契約負債	53	52
その他	2,112	1,626
流動負債合計	8,282	8,079
固定負債		
長期借入金	838	1,221
長期未払金	60	60
リース債務	167	143
資産除去債務	54	54
退職給付に係る負債	19	20
繰延税金負債	83	16
その他	1	21
固定負債合計	1,225	1,538
負債合計	9,508	9,618
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,102	1,102
資本剰余金	1,098	1,098
利益剰余金	14,157	13,872
自己株式	△64	△64
株主資本合計	16,294	16,009
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	388	406
繰延ヘッジ損益	△4	△5
為替換算調整勘定	710	602
その他の包括利益累計額合計	1,094	1,002
純資産合計	17,388	17,012
負債純資産合計	26,897	26,630

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
売上高	12,173	12,101
売上原価	8,860	9,285
売上総利益	3,313	2,815
販売費及び一般管理費	2,834	2,953
営業利益又は営業損失(△)	478	△137
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	16	25
持分法による投資利益	31	33
長期為替予約評価益	85	—
為替差益	74	24
その他	5	13
営業外収益合計	213	96
営業外費用		
支払利息	8	8
長期為替予約評価損	—	70
その他	3	4
営業外費用合計	12	83
経常利益又は経常損失(△)	679	△124
特別利益		
固定資産売却益	0	—
投資有価証券売却益	14	—
特別利益合計	15	—
特別損失		
固定資産除却損	0	1
特別損失合計	0	1
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	694	△125
法人税、住民税及び事業税	277	11
法人税等調整額	△58	△80
法人税等合計	219	△69
四半期純利益又は四半期純損失(△)	475	△56
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	475	△56

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	475	△56
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	25	18
繰延ヘッジ損益	8	△1
為替換算調整勘定	83	△81
持分法適用会社に対する持分相当額	25	△27
その他の包括利益合計	143	△91
四半期包括利益	618	△148
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	618	△148
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
減価償却費	281百万円	301百万円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2024年4月1日 至2024年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	業務用 食品等	ヘルス フード	計				
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	11,178	881	12,060	113	12,173	—	12,173
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	152	152	△152	—
計	11,178	881	12,060	265	12,326	△152	12,173
セグメント利益	965	44	1,009	0	1,010	△531	478

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その主なものは運輸業であります。

2. セグメント利益の調整額△531百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△538百万円及び棚卸資産の調整額6百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自2025年4月1日 至2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	業務用 食品等	ヘルス フード	計				
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	11,031	953	11,985	116	12,101	—	12,101
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	185	185	△185	—
計	11,031	953	11,985	302	12,287	△185	12,101
セグメント利益	332	51	384	7	391	△529	△137

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その主なものは運輸業であります。

2. セグメント利益の調整額△529百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△499百万円及び棚卸資産の調整額△30百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。